



Yuri's Night 2012 –moon edition- 活動報告書

1. Yuri's Night 2012 -Moon Edition- 活動報告

1.1 活動概要

1.2 主催者側から

2. Yuri's Night 2012 -Moon Edition- イベント詳細

2.1 昼の部

2.2 夜の部

文責

Yuri's Night 2012 -Moon Edition-実行委員会

代表 小西 隆介

1. Yuri's Night 2012 -Moon Edition- 活動報告

1.1 活動概要

本年度は4月14日(土)に Yuri's Night が開催されました。特に本年度は、Yuri's Night 2012 -Moon Edition- と題して、月面探査を競う宇宙開発コンテスト「Google Lunar X PRIZE」参加チームである、White Label Space Japan の方々や、渋谷区こども科学センター・ハチラボの方々にもご協力頂き、Yuri's Night を開催することが出来ました。

開催実現にあたり、実行委員会として以下の活動を行いました。

① 実行委員会の運営

本年度は、実行委員会の立ち上げが2月と、直前の時期となってしまったため、会場や開催内容が時間的に限定される場面がありました。また、実行委員会に関しても他団体と他の Yuri's Night を開催する団体とコンタクトを取ることが出来ず、単独での開催になりました。

今後、Yuri's Night というイベントを日本において盛り上げていくためにも、単独団体による開催ではなく、日本全国の実行団体との共同開催は非常に重要であり、これが実現できなかった事は大きな反省点であると言えます。

② ドキュメント共有・メーリングリストの管理

Google Group 上に、本イベントに向けたグループを作成し、Google ドキュメントと合わせてドキュメントの共有、メーリングリストの管理を行いました。

③ 海外 Yuri's Night 本部との連携

Yuri's Night 事務局本部とコンタクトを取り、公式のホームページに日本での開催を正式に登録・告知して頂きました。

(参考 URL : <http://yurisnight.net/>)

コンタクト回数は少なかったものの、本部への正式登録は日本全国で本イベントのみであり、日本における Yuri's Night 開催を全世界にアピールする意味でも非常に有用であった、と考えています。

④ 広報活動

本年度は、専用のホームページを作成せずに、Facebook 上で実行委員会が作成した「ページ」を公開しました。それと同時に、Twitter 上でもアカウントを作成し広報活動に活かしました。このように、SNS を有効活用することで、これまで Yuri's Night の事を知らなかった層を含めた広報活動が可能になった、と言えます。

しかし課題として、宇宙教育に関するイベントを実行するにあたり、上記の広報対象層から外れる、子どもたちへの広報活動に苦労した、という点がありました。今回は、YAC（日本宇宙少年団）横浜分団では本イベントの広報活動を行うことが出来ましたが、他の分団や地域の小学校への広報なども行うべきだったと感じました。

⑤ 会計・協賛

本年度は、White Label Space Japan の方々やハチラボの方々のご好意もあり、昼の宇宙教育の部は参加費なし、夜の懇親会の部でも飲食代のみとなり、会計が必要な項目や協賛金募集を行うこともなかったため、特筆すべき事項はありませんでした。この場を借りて、厚く御礼申し上げます。

⑥ 実行委員会組織

Yuri's Night 2012 -Moon Edition-実行委員会

代表：小西 隆介

広報：紫藤 洋平、鈴木 裕行

会計：久保田 明夏

渉外：和田 直樹

会場：鈴木 元気

アドバイザー：山下 浩史、中村 大地

共催：White Label Space Japan、渋谷区こども科学センター・ハチラボ

本部組織：Space Generation Advisory Council (SGAC)

1.2 主催者側から

これまで、様々な団体、人々によって Yuri's Night というイベントが世界中で開催されてきました。2012 年で 11 年目を迎え、51 カ国 236 会場で開催される、という華々しい結果に終わりました。

しかしながら運営として、意識の共有不足や実行力不足など、力が至らない部分も多々あり、各方面に大変ご迷惑お掛け致しました事を、ここにお詫び申し上げます。

本年度の Yuri's Night ですが、「Google Lunar X PRIZE」に挑戦されている White Label Space Japan の方々にご協力頂き、非常に魅力的なイベントを開催出来ました。実行委員一同、本当に感謝しております。White Label Space Japan の方々のご協力がなければ、このようなイベントの成功は決してあり得ませんでした。また、渋谷区こども科学センター・ハチラボの職員の方々にも、会場だけでなく様々な方面でお世話になりました。ハチラボの方々のご好意により、このような素敵なイベントを開催出来ました。

この場を借りて、実行委員一同を代表致しまして、厚く御礼申し上げます。

Yuri's Night 2012 -Moon Edition-実行委員会
代表 小西 隆介



参加者の小学生、スタッフ一同

2. Yuri's Night 2012 -Moon Edition- イベント詳細

2.1. 昼の部

内容 座学+「月面探査ローバーを用いたタイムトライアルレース」

場所 渋谷区こども科学センター・ハチラボ

スケジュール 13:00～14:45 第1部 ハチラボを対象としたイベント
15:00～16:45 第2部 YAC 及び当日参加者を対象イベント
(両イベント内容に差異はなし)

狙い

イントロダクションとして、実行委員会からYuri's Nightについて解説したあと、White Label Space Japanの袴田様から、「Google Lunar X PRIZE」のお話、開発チームのお話と、東北大学の吉田先生から宇宙開発と月面探査機についてのお話を頂きました。お二方とも、宇宙開発の最前線に立ってご活躍されており、そのような方々からの説明によって、「ホンモノ」の宇宙開発を感じてもらいます。もちろん、White Label Space Japanのチームによって開発されたローバーを生で見ることが出来ます。

White Label Japanが参加する「Google Lunar X PRIZE」のミッションは、月に無人の探査機を送り込み、500m 以上走行させて、指定された動画データを地球に送り返すことです。このレースを模擬的に再現し、参加する小学生たちにホンモノのローバーを実際に操縦してもらうことで、宇宙開発や大きな夢に挑戦することの楽しさ・ワクワク感を伝えます。

また月面で走行することを模擬的に再現することで、小学生たちの月に対する理解を深め、また課題を自ら解決していく自主性を養います。

レース詳細

子どもたちは、それぞれが交替制でローバーの操縦者となり、月面をイメージした迷路のようなコースを走行させます。しかし、以下のような点において、宇宙教育の基本である、「自分の力で考えさせる」、「ホンモノを体験させる」、「宇宙を身近に感じさせる」ための工夫をしています。

- ① 直接目で探査機を見て操縦することができない
⇒データから推測して仮説を立てて行動に移す力を養う
- ② 月面は舗装された道路とは違い、でこぼこした不整地である
⇒月面の環境に対する理解、およびローバーの機構への理解を高める
- ③ 地球から距離が離れすぎているため、命令に遅れが生じる
⇒月と地球の距離を体感できる

当日の様子



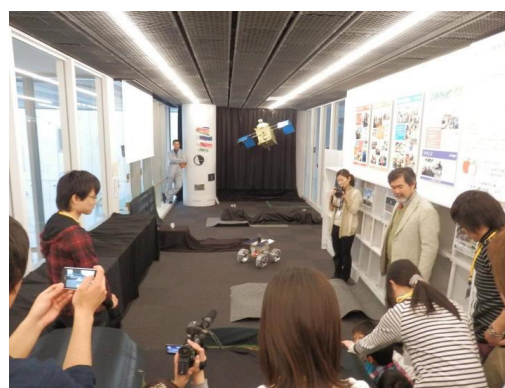
昼の部の様子



探査ローバーの操縦中



カメラ映像を見ながら操縦



月面上（仮想）の探査ローバー

参加された小学生たちも大盛り上がりでローバーを操縦させ、ゴールにたどり着かせることができていました。見ている大人のスタッフも一緒になり楽しむことが出来ました。事前に与えた戦略を立てる時間でも、様々な意見が飛び交い、中には大人も感心させるようなアイデアも見られました。

走行を見学しているチームも、走行途中で月面探査機の研究を行っている吉田先生に様々な解説を頂き、子どもだけでなく大人もその話に興味を惹かれていました。

このような宇宙教育イベントは、子どもたちにとって思い出深いものになると信じています。特に、今回は宇宙開発の最前線で活躍している方々をゲストにお呼びしたこと、その方々が開発されたローバーを自分が実際に操縦できること、渋谷区こども科学センター・ハチラボという科学教育に熱心な方々のご協力を得られたことなど、多くの宇宙開発の「ホンモノ」体験に溢れており、宇宙開発をより身近に感じてもらえたのではないかと感じております。

2.2. 夜の部

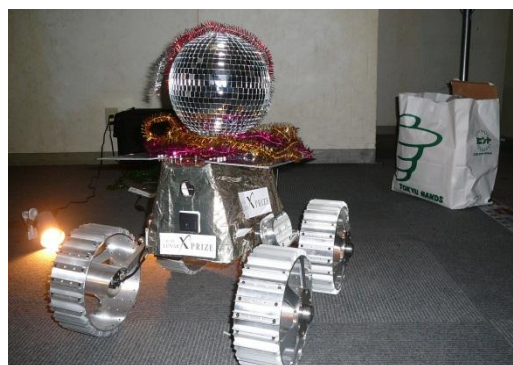
内容 懇親会

場所 C-BARS 渋谷店

スケジュール 17:45～受付開始

18:00～21:00 各々ビュッフェ式に食事を摂りながら懇談

当日の様子



夜の部の様子

懇親会では、袴田様による **White Label Space Japan** についてのご説明や、当日の昼の部の写真紹介など、交流会以外においてもお楽しみ頂きました。途中、**White Label Space Japan** の方々のご好意により、懇親会会場においてローバーを走行させる試験を行いました。また、ローバーにミラーボールを搭載するというサプライズもご用意頂き、参加者の方々はその走行する姿に大きく感心されていました。

本イベントでは、宇宙に興味のある方々が、この **Yuri's Night** の名の下にお集まり頂き、ゲストを含む様々な方々と宇宙を肴にご交流頂きました。このような交流会は、今後の宇宙開発にとって重要な役割を果たすと考えています。なぜならば、宇宙開発のフィールドはまだまだ発展途中であり、このような広い交流活動によって、新たな仲間に出会うことや、他の方の活躍を生で聞くことでお互いを刺激する、といった「副作用」が大いに期待できるからです。そんな、今後の宇宙開発の発展・振興に役に立つことができたのであれば、実行委員会にとって誇りに思います。